

第17回 首都圏政策研究会 要旨

「アジアの中の日本～日本を取り巻く国際環境を考察する」

2013年3月28日(木)

講師：桐蔭横浜大学法学部教授 ペマ・ギャルポ氏



①アジアについて

日本国内にいと日本が世界に愛されているかのように思われているが、実際にどうか。アジアにはいくつかグループがある。

まず上海機構がある。中国、ロシアが中心となっている。これらが最初は経済的協力で始まって、現在は軍事同盟化・政治的な組織になっている。日本はオブザーバーにすらなっていない。

ASEANは、アメリカが中心となって作った、共産主義を止めるための組織。ASEAN+3にすると、日本が入り、中国、韓国とともにオブザーバーとなっている。ASEANは日本よりも先にインドとFTAを結んでいるため、インドと日本・韓国・中国という枠組み。日本には、決定権はない。

次にバングラディッシュ、インド、スリランカ、モルディブ、ネパール、パキスタン、アフガニスタンなど8つの国で構成されている南アジア地域協力連合がある。できたのは遅かったが、連帯は早く促進した。その理由は、英語を共通語として使っていること、専門家の資格を地域内に認め合っている。経済的な連帯が強い。日本は3年前にやっとオブザーバーとなったが決定権はない。

つまり日本はアジアで孤立している。にもかかわらず、日本は、国連の常任理事国になりたいといっている。国連の常任理事国になるためには、アジアの代表となるが、支持しているは、3カ国しかない。その理由は、日本がどっちに向いているかわからない。つまりアメリカが2票になってしまうのは、困る。日本が何を考えているのか、同国連改革していくのか見えない。これが日本の置かれている状況。

日本は100万以上の軍隊をもった3つの国、朝鮮、中国、ソ連に友好と言うよりも仮想敵国とされている。北朝鮮、中国は戦争体勢。それに対して、日本に緊張感なし。したがって、中に対しては、優しい姿勢、外に対しては、強い姿勢をもった指導者が求められている。本日はインドと中国に特に強調して話をする。

②中国について

中国との関係においては、国交正常化で過去のすべてが終わったはず。しかし国交正常化以後、80数回、公式謝罪している。しかしまだ戦後は終わっていない。何かあるたびに言われる。その原因は日本人にある。

日本人は、中国は広いというが、現在の中国の領土の 63%は、中国人以外の領土。中国の歴史は、中華を定義した孫文からで 4000 年もない。例えば清は、満州人で明は、漢民族だが元は、モンゴル人の国だった。中華という言葉は、孫文がアメリカを習って大陸をまとめるために使った言葉である。そういう所で、日本人は勘違いしているところがある。

そして現在は大中華帝国が目標となっている。これは民族の定義とは、異なっており、中国のいう中華民族は、いわばバーチャルのもの。

中国は、沖縄のことを琉球という。中国の定義では、一度でも中国に朝貢したものは、祖国の一部と考えている。チベットに中国が侵略してきた時 27 万人のお坊さんは、2 万の兵隊には勝てなかった。平和は祈るだけでは、守れない。領土問題などを考える際には、こうした成り立ちを考えないといけない。

中華人民共和国の成立に一番貢献しているのはソ連。しかしそのソ連とも戦争した。ベトナム、インドと固く友好関係を結んだしかし、両国と戦争した。しかし勝ってはいない。うまく負けている。内陸はこれ以上広がらないため、海洋国家になるしかないと考えた。現在 240 万の軍隊がいて、60 隻の潜水艦を配備している。これは、日本にとって脅威。

問題は中国の本質は何かということ。昨年私は、本を出しました。その本のタイトルは、「最終目標は天皇の処刑」というもの。これは中国の第 2 次工作会議で考えられ 3 つのステップがある。第一は友好。スポーツ、芸能を通して、友好関係を築くこと。それからメディアの条約を結んで、日本のメディアは中国にとってマイナスなことは書けない。第二段階は民主的な連立政権で政治を弱体化すること。第三は、日本を共和国制にする。そして最終的に先の戦争の責任をとって天皇処刑する。昨年その本を書いた理由は、危険なことを感じたから。それは民主党議員が皇室を野次ったということ、岡田克也さんが天皇陛下の言葉にいちやもんをつけたということ、小沢さんが、大訪中の際、野戦の司令官といったということからである。中国人民にとっては、野戦の司令官というのは、中国共産党軍事委員会主席の指揮のもとにあるということ。さらに 2000 人の工作員が日本の中で活動している。中国は決して軽く見てはならない。

④インドについて

インドは、サンフランシスコ講和条約の際にサインしなかったのには理由があった。それは、あの文章が日本を加害者として扱っている、旧敵国として扱っているのは困る。国連に入る以上対等でないと意味が無いと主張した。この時期、日本とインドは関係が良かった。しかし朝鮮戦争の際、少し悪くなる。朝鮮戦争の際インドはアメリカを支持しなかった。1990 年代から 2000 年にアメリカの態度が変わる。

インドは、今後人口も増え 12 億人になる。富裕層の数も人口の 10%で、それから 20%くらいが中の上の生活をしている。インドの教育水準は高い。普及率は低いがそれは、

高齢者であって若い人の識字率は高い。

今アメリカに中国の留学生が 15 万人くらいいる。インドの留学生は 11 万人いる。日本にインドの留学生は 700 人もいない。それは、日本人の頭には、インドは貧乏で、カースト制があるという印象がある。これは日本とインドを意図的に離れさせようとすることがあったから。一方インドにおいては、日本は行ってみたい国 No.1 なのです。ダルマ、東大寺、聖徳太子の 17 条の憲法も、インドに由来している。そういった所で考えなおさないといけないところがある。

⑤日本について

日本にはまだまだ底力があると思う。1950 年代から 1970 年代がある意味理想的な国だった。なぜかという日本に関する研究が盛んになった。なぜ日本は戦争で負けたはずなのにわずかの間にここまで成長できたのかということに、100 冊以上の本が出ている。近代化と伝統をどう両立していくか、バランスをとるかの 1 つの模範にしていた。

それは戦前の教育のおかげだと思う。悪い面もあった。戦争に負けた理由も言わない。その後、五輪、万博当たりから傲慢になりはじめた。さらに 1980 年代になってアメリカの色んな物を買いきりはじめた。アメリカのメンツを潰すようなことをした。そこでアメリカは日本に対して日米貿易摩擦などにおいてさまざまな無理を言い始めた。

マハティール首相はじめ、インドなどがルックイーストと言い始めた時には、中国のことではなく日本を目標にしていた。トインビー博士は日本に来て、21 世紀は日本が世界をリードする。なぜなら日本は東洋の精神文化を維持しながら西洋の科学技術を応用して、今の豊かさと便利さを勝ち取っている。その両方のバランスをとれている日本が第三の文明を起こすと言った。

そして日米貿易摩擦を通じて、日本を警戒し始めた。G8 とはなにか。G8 は会議をやるたびに、日本とドイツに様々な条件をつけてきた。戦争は、武器だけではない。目に見えない戦争がある。それは、極端な平等主義とかがいつの間にか社会を蝕んでいく。

アメリカがなぜ G8 をやったか。1 つは、ドイツと日本に手枷足枷するため。かつて国連は、アメリカよりだったが、アメリカの思うようには行かなくなった。そこで国連の機能を転嫁させたものが G8 といえる。しかし G8 も難しくなってきたので、さらにそれが G20 となった。

日本の現状を厳しく見る必要がある。そのためには国、都の指導者に国家観をしっかり持ったリーダーが必要。地球的規模でものを見るということが必要。なぜなら私達の命、経済はみんなつながっている。そして誰とどういふうに組むかが重用となる。国際法やアメリカや民主主義は絶対ではないということを考えるべき。

もう一つ重要なことはアイデンティティの問題。国連は、3月20日を国連幸せデーとしている。ブータンという小さな国の哲学が、国連の10年間の目標となった。

ブータンは、中国とインドの大国に挟まれている。そこで生き残るためにはアイデンテ

ィティ、1つは政策面におけるアイデンティティ、1つは、どこへ行くときも民族衣装をまとうということ。

これには2つの理由はある。1つは、伝統産業を守る。日常生活に伝統を継承して行くことが重要。1つは、ブータンが軍隊を作っても弱いため、自らの存在をアピールして、国際世論に守ってもらうため。

そこで日本が常任理事国になるためには、日本ならではの国連改革をガリ国連事務総長のように提案していくべき。

尖閣諸島の問題も日本次第。日本が甘く、侵略しやすければ、侵略するし、そうでなければしない。国と世論が一体となっていることや国際世論に訴えていくことが重用。しかし日本のしくみとしては、外務省だけに任せている。中国にはいろんな広報の組織がある。だんだん日本の方が悪いという印象を与えている。例えば、レーザー照射について中国自ら認めたにもかかわらず、報道しない。中国は、積極的に自分が正しいか訴えかけている。

そして戦わなくて済むように戦うことが重用。そのためには仲間を作って、リーダーになることが重用。付いて行くだけでは、意味が無い。

質疑応答

Q：オリンピック招致について。多数派工作が必要。どのように予想しているのか。

A：マイナス要素は地震がある。留学生でもまだ戻って来ていない人もいる。地震の報道のしすぎていることが影響している。ほんとに彼らが目にしたもので評価はしていない。強みは予算。接待は逆効果ではないかと思う。トルコの場合には、ヨーロッパとアジアの架け橋という意味でプラス。また厳密な意味でのイスラム国家ではできないが、トルコでならできるところでプラス。日本の強みはODAなどの予算。使い方によっては、マイナス。あまり期待していない。もっとクリエイティブなことでアプローチしてほしい。

Q：経済連携だけではなく、安全保障面での連携について。アジアにも NATO のような安全保障機構を作るような議論があってもいいのでは。

A：一つは、ASEAN+6 が考えられる。これは動いていると思う。もう一つは、アメリカを軸にしてできているのは、アメリカとインド・日本・韓国・オーストラリア・ニュージーランドとこれができている。それからアメリカとインドネシア・タイ・フィリピン、それからインドとベトナムができている。日本とインドも考えている。しかし1つになることは、アメリカ自身が望んでいないという状況。アメリカはあくまでアメリカ軸であることを望んでいる。しかしインドとベトナムは別のことを考えている。こうしたアメリカを中心としたものでも、自然と作っていけば中国も

静かになるのではと思う。

Q：北朝鮮はどうか。

A：中国、アメリカも北朝鮮カードを使いたい。北朝鮮自身は緩やかにすると下から革命が起きるかもしれない。あまり抑えていると、爆発するかもしれない。おまけに食糧が不足していることは事実。本当は北朝鮮も経済を自由化したい。そのためにいろんなところにアンテナを張って模索している状況。